

平成 22 年 5 月 14 日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2007 ～ 2010

課題番号：19320105

研究課題名（和文） 全国墨書土器データベースの構築と在地社会の研究

研究課題名（英文） Compilation of Data Base of Pottery with Ink Inscriptions
as an Approach to Understanding Local Societies of Ancient Japan

研究代表者

吉村 武彦（YOSHIMURA TAKEHIKO）

明治大学・文学部・教授

研究者番号：50011367

研究代表者の専門分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：日本史・考古学・墨書土器・出土文字資料・データベース

1. 研究計画の概要

(1) 出土文字資料としての墨書土器（刻書土器を含む）のデータベースの作成・拡充。

① 墨書土器の研究に関する文献目録を作成し、研究動向・研究史を総括する。そのために、研究論文・報告書等を購入・複写して、収集する。

② 墨書土器に関する簡易型の全国データベース（釈文・遺跡名・所在地・出典データ）を拡充する。

③ 地域（都道府県）別に詳細なデータベース（釈文・実測図〈複写〉、遺跡名・所在地・出土遺構・出土状況・時期・器質・器種・寸法・記銘部位・記銘方向・字体）を作成する。

④ 墨に関する研究文献を集め、墨自体と製作方式等の基礎的研究を行う。

(2) 出土文字資料を中心として地域社会の研究を行う。主として東国を扱う。

2. 研究の進捗状況

(1) 墨書土器データベースの作成・拡充

① 墨書土器に関する研究論文については、大学図書館（明治大学博物館を含む）を始め、学術書・報告書（考察を含む場合に限る）等や各種の文献目録から収集し、現在1825点になった。日本における墨書土器研究の論文をかなり網羅していると思われる。また、重要な佐藤次男氏の初期論文を翻刻した（『古代学研究所紀要』5）。

②③ 四国・九州に関する詳細な墨書土器データベースが完成し、ホームページで公開した。現在は奈良県の平城宮・京と、中

部地域の静岡・富山・福井県のデータを収集する作業を進めている。また、学術フロンティア推進事業「日本古代における文字・図像・伝承と宗教の総合的研究」等の研究成果もあり、これらを総合して、最新版の簡易型全国データベースを整備して公開する作業を行っている。なお、東北地方は、『青森県史』資料編古代2でデータベースが公開されたこともあり、当該研究の対象から外すことにした。

④ 墨の研究は、出土資料が増えていないこともあり、『文字瓦・墨書土器のデータベース構築と地域社会の研究』（平成16～平成18年度科学研究費補助金〈基盤研究B2〉研究成果報告書、研究代表者吉村武彦）以降、特に顕著な研究はみられない。

(2) 明治大学の古代学研究所と協力して、千葉県印旛郡栄町所在の龍角寺と印旛国造を主対象とする房総地域の研究を展開した。主な成果として『房総と古代王権』（高志書院、2009年3月）を刊行し、東国研究を一步前進させた。また、現在は下総国府・国分寺地域の研究を進めている。なお、研究分担者と連携研究者は、各自墨書土器等のデータベースを視野に入れて、地域研究を行っている。

3. 現在までの達成度

② おおむね順調に進展している。

(理由)

墨書土器に関する研究文献を収集し、データベースを作成していく方法は、一定の合理性をもっており、詳細なデータベース

を作成し、公開してきた（明治大学HPの研究知財機構における古代学研究所 <http://www.kisc.meiji.ac.jp/~meikodai/>）。ただし、報告書等からカードを作成し、入力する作業には膨大な時間が必要であり、近畿・中部甲信越・中国地方全域の集成には至っていない。

4. 今後の研究の推進方策

(1) 墨書土器に関する研究文献を収集し、文献目録のデータベースを作成する作業は、継続していきたい。ただし、大学には収集した文献を収蔵して公開するスペースはない。当面はデータベースの公開にとどめておきたいが、文献をセレクトして学術論文集として刊行するような方途も考慮すべきかもしれない。

(2) 詳細な墨書土器データベースは、関東・四国・九州地域のデータベースは完成して公開している。ただし、年々増加する資料をデータベースに反映させるには、新たに公的資金を得て、作業を継続していかなければならない。

近畿・中部甲信越・中国地域については、静岡・福井・富山・奈良県については今年度中の公開をめざしている。しかし、他の地域については、さらに研究資金を増加させて研究者の組織化を進めていかなければ実現が難しい。本来、墨書土器データベースは公的機関が責任を持って作成してもおかしくない事業である。民間で進めるには限界もある。

(3) 地域社会の研究は、東国に焦点をあてて継続したいが、西国・宮都との比較研究も必要である。さらに、出土文字資料の研究は、朝鮮（韓）半島や中国との比較研究が必須であることが、韓国調査において実感できた。中国・韓国とも墨書土器研究は日本以上に遅れている。

(4) 上記の現状から、来年度以降は、規模を拡大するとともに、東アジアに視点を持ち、墨書土器研究を継続していきたい。そのため、科学研究費補助金の基盤研究SないしAを申請する予定である。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計19件）

吉村武彦「墨書土器に関する文献目録稿2009年版」、『明治大学古代学研究所紀要』13、査読無、2010、53～101頁

加藤友康「摂関時代の地方政治」、『中央史学』31、査読無、2008、1～16頁

柴田博子「西海道の古代出土文字資料」、『木簡研究』29、査読無、2009、199～210頁

〔学会発表〕（計15件）

吉村武彦「日本列島における国家形成」、中国社会科学院世界歴史研究所研究会議、2009年3月4日、中国北京市

〔図書〕（計4件）

吉村武彦・山路直充編『房総と古代王権』、高志書院、2009年、373頁

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕